

2017年12月11日

フランシスコ教皇様

日本カトリック障害者連絡協議会
会長 江戸徹

† 主の平和

先日の日本で発行のカトリック新聞に「障害のある人を受け入れる教会を」という見出しでパパ様のメッセージが掲載されました。これはパパ様が教皇庁福音化推進評議会の参加者へ語られた言葉でした。会議の中で話し合われたきっかけは、パパ様の強い希望により話し合われたとのこと。それは日本にいる私たちカトリック障害者連絡協議会の活動にとっても大きな励みとなりました。

1981年ヨハネ・パウロⅡ世教皇様が来日の折に、カトリックの信仰を持つ障害者団体が結束し「日本カトリック障害者連絡協議会」を創設しました。そのお祝いにローマ在住であった日本の神父様のご協力で、ヨハネ・パウロⅡ世に同封の「わ」を書いていただきました。この意味はアジジの聖フランシスコの「Pax et Bonum -和と善」の中の一つの言葉で、大いなる祝福のプレゼントとなりました。そして、私たちは「ミサへの完全参加と平等」をめざし運動してまいりました。2017年現在は、教会の中でも障害があるからという理由で差別されることは少なくなりました。障害があっても教会の中で同じ仲間として発言もできるようになりました。

今年、日本カトリック障害者連絡協議会は日本中の953の教会へ「あなたの教会には障害者がいますか」という趣旨のアンケートを送りました。その回答34%の中で、障害者はいないと答えた教会は70教会22%でした。

障害者がいると答えた中でも障害者とは誰なのか、医療的に考えた障害だけなのかなど、言葉の意味するところを求められていました。このアンケートは「障害者の定義」ではなく、何が障害であるかを共同体の中で考え汲み取っていただきたいという趣旨でもありました。その中でパパ様の嬉しいメッセージが伝えられました。「障害のある人を受け入れる教会を」と。

障害者を受け入れる教会ではなく、障害のある人をだれも排除することなくありのまま受け入れる教会です。とまで言われた意味は、私どものアンケートの趣旨でもあるのです。パパ様がおっしゃっていました「どんな深刻な困難さにあっても、困難を伴いながらも、豊かな意味のある人生をたどっているのです」というお言葉と、弱さも人間らしさの要素の一つだからというお言葉に励まされています。

障害があるがゆえに、教会共同体の一員として、障害が障害でなくなるステップを一段一段とわかちあいながら登り、豊かな神の国の実現に努めていく使命をあらためて感じさせていただきました。

大きな感謝とともに パパ様のご健康を お祈りいたします。

連絡先 〒 466-0037 名古屋市昭和区恵方町 2-15
日本カトリック障害者連絡協議会
e-mail edo@aju-cil.com

電話 052-852-1426

FAX 052-841-2225